

プロの日本語教師は 「言葉のお医者さん」！！

＜施設の声＞

声 1、昨年 12 月に入職して約半年過ぎた時点で、月報にも書かれている似たような悩みが出てきている。しかし、対処方法が分からないままに過ごしている。その中で焦らず、一つずつクリアしていけたら良いと思っている。国家試験受験を考えると、少しずつ専門用語も覚えていけるようにしたい。机の上だけで学習をするのではなく、月報にもあったように現場に入りながら、体で日本語や専門用語を身につけることが重要だと理解した。でも、その具体的な方法が今一つ分からないでいる。（愛知県・A施設）

声 2、学習意欲は二名とも幸いにもあり、業務は多少、意思疎通ができないことはあるが、何とかこなしていっている。ただし、業務内容は介護士としての専門的な仕事をまだ任せられるほどではない。職員の体制として、なかなか学習を見ることができず、チェックもできていないことが問題だ。施設として、しっかりとした学習計画を立てていないために、国家試験に対する不安がある。（鹿児島県・H施設）

声 3、うちの施設は三名受入れて二名合格、一名は家庭の事情で帰国した。県内で五名の合格者を出したが、残って働いているのは二名のみ。県内でたった二名しかいないために、合格した施設も皆、がっかりしている。合格者に対して、個人を束縛することは出来ないけれど、受け入れる際に、受かったら最低 2～3 年は同じ施設で働くような契約を、事前に結んでおく必要があると思う。このような制度があれば、受け入れ側も前向きに受け入れをしたい気持ちも出てくるが、条件づけをするのは難しいんだろうか。さらに、県では教材の作成や研修などに力を入れてきたが、合格率があまり良くなかった。（静岡県・N施設）

【この三つの施設の共通点】

- ① 日本語力がないのにも関わらず、試験勉強をしている。
- ② 日本語教師や職員が指導しているが、合格者が少ない。
- ③ 事業団や県から支給される教材を使っている。
- ④ 受験者の能力を把握していない。
- ⑤ ワンワードコミュニケーションだけれど、会話力があると思い込んでいる。

★ ★ 今まで全国の各施設から同じような「悩み・嘆きの声」が寄せられてきましたが、すでに外国人受け入れは約 5 年も経っているにも関わらず、未だに同じような「悩み・嘆きの声」があることは、介護業界に【外国人に対する日本語教育の本質的な問題】があることを表しています。受け入れ施設と同様に、国や事業団なども同様の問題を抱えていると思われますので、「素人考えで日本語教育をしない」ことを、この際はっきりと自覚すべきだと思います。そして、本当にプロの日本語教育者の考えや助言を謙虚に受け止めて、それを聞くべきでしょう。そのことが、国家試験合格率を高める最も重要な要素となります。

【①「日本語力がないのにも関わらず、試験勉強をしている。」の改善策】

- 多くの施設ではこのような事例が沢山見受けられますが、言語能力がないにも関わらず、専門知識を中心に作られた国家試験過去問題や、介護の参考書などを勉強することは、「5歳児レベルの子供に専門学校レベルの勉強をさせている」と考えても間違いではありません。
- 理解を伴わない学習内容は、全く教育効果がない学習方法ですので、早急に改める必要があります。まずは当然のことながら、受験者の言語能力にあった学習をしっかりと行うべきです。そのためには、受験者の言語能力を起点として受験日までの時間量を計り、具体的な【学習計画表】を早急に作る必要があります。

【②「日本語教師や職員が指導しているが、合格者が少ない。」の改善策】

- この事例の場合は、施設側や日本語教師にしっかりとした言語教育の専門知識がないことが原因です。受験者も体系的に学べる学習方法ではないため混乱をきたし、ただ、知識を暗記するだけの学習で、知的な刺激を与えないために、学習意欲が減少する方法です。
- この事例に対応する方法としては、言語能力は約10の【言語技能】から作られており、これらの技能を定期的に数値で把握することにより、言語能力を向上させる具体的な処置方法が見えてくるのです。と同時に、言語教育に対する専門的な相談を専門家とする必要があります。それに基づいて現状の改善を行う必要があります。

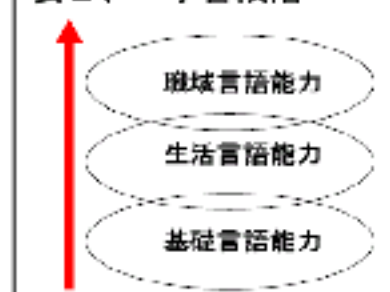
表Ⅰ、言語技能項目



【③「事業団や県から支給される教材を使っている。」の改善策】

- 事業団支給教材は、ほとんどの受け入れ施設が使用している教材です。しかし、合格結果を見ると明らかなようにこの教材で学習した結果、今年は合格率 39.8%しかありませんでした。この最大の原因は教材にあるといえます。その理由は、残念ながら事業団が支給している教材は、外国人の受験者を対象として専門的に作られた教材とはいえません。即ち、「受験者の言語能力に合わせた教材ではない」ということです。対訳をつけたり、漢字に振り仮名をつけたりして、外国人向けの対応をしていますが、実質的にはただ、それを暗記させる教材の域を出ないものとなっています。
- 全国の受け入れ施設から弊社に寄せられている声では、事業団の教材についての批判も多く、この声

表Ⅱ、学習段階



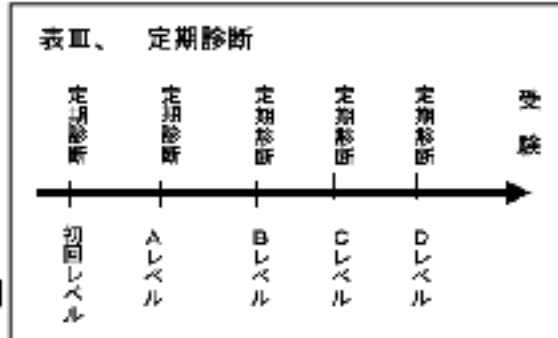
自体が、教材の教育効果のなさを表しています。

「正しい教材」とは、外国人教育の場合には「外国人の今持っている言語能力に合わせて、体系的で段階的に向上させる教材」を選ぶべきです。段階的とは【表Ⅱにある通り、基礎言語能力、生活言語能力、職域言語能力】を身につけさせることともに並行して、【自学能力を養う教材】を使い、国家試験に対する対応能力を養うことが大切です。そして、自学で専門知識を身につけさせた上で、国家試験合格能力を養うことを目的とした教材が当然、重要で必要な教材といえます。

【④「受験者の能力を把握していない。」の改善策】

- 【教育を科学としてとらえる視点】が必要で、残念ながら多くの関係者はこの視点が欠落しているために、教育効果を上げられないでいます。即ち、分かり易い例でいえば「受験者を患者としてとらえた場合、医者立場となる日本語教師や担当者が患者の症状を把握しないままに、処方したらどういふことになるか」と考えただけでも、はっきりと無謀な状態であることが分かります。

- 私たちプロの日本語教師は「言葉に対する医者」という自覚を持っており、常に患者である受験者の言語能力を定期的に客観的に図ることを心がけます。「定期的に客観的に図る」とは、医療でいうところの「定期診断」と同じです。定期的な診断で、言語技能に問題があるのかを把握して、問題のある技能に対して適時に専門的な処方を行うことです。即ち、患者の症状を把握しないままに治療をすることは不可能なので、外国人に対する言語教育に対しても、医療機関が行っている「患者に対する基本的な対応方法」を考えると、【言語能力を数値化して、客観視する重要性】が理解できると思います。



【⑤「ワンワードコミュニケーションだけど、会話力があると思い込んでいる。」の改善策】

- 介護分野においてのみの問題ではありません。この傾向は外国人に対する日本人の錯覚現象といえます。即ち、外国人との対応が頻繁に行われるために対応している日本人の多くの場合は、ほとんどが「自分勝手な思い込みで相手が何を言っているかや、何を考えているかを理解しているつもり」になっています。分かり易い例でいえば、「母親が子供の気持ちを勝手に汲み取ることと同じで、思い込みの現象」といえます。しかし、外国人は一つの言葉（ワンワード）で自分の心情や考えが分かってもらえるとは決して、思いません。なぜならば、異文化社会の外国人と同一の日本文化の中で生まれ育っている日本人の価値観は、異なります。
- 日本語教育で代表的な例は「やり・もらいの概念」で、これは日本人特有の概念や価値観であり、フィリピン人やインドネシア人にはこの概念は存在しません。日本人は「～してやった・～してもらった」などの意識を日常的に無意識のうちに使っていますが、外国人の場合にはこのような意識はなく、契約社会の人間であればあるほど、「やり・もらいの概念」がありません。コミュニケーションをとる中で、ワンワードだけで相手の意識や感情が理解でき、また業務上においても意思疎通が可能であることなどは、ほとんど不可能といえます。そのため「意思疎通はできる」とか、「会話はできる」とかなど、外国人に対して簡単に思い込むことは大きな間違いです。解決方法としては、主部・述部を整えた文で、文意が含まれた会話をさせることにつきます。



「普通概念」とは

※ 言語学上では全ての人間が持ち、文化が異なっても認識する概念で、その概念語を発した場合においてもその概念語の意味が即座に理解できるものをいう。

例えば、具体的なもの（机・家・町など）はそれぞれの国の言語で表現するが、その言語の意味は他言語の人であっても、その具象物を見ることによって何であるかを理解できるものだ。「普通概念語」は発音や文字の違いがあっても、概念語の意味は同じというわけで、これらの言葉を「普通概念語」といい、その領域を「普通概念領域」という。

「特殊概念」とは

※ それに対して、「特殊概念領域」とは、文化の違いにより同じ人間であっても理解することが困難である領域のことをいい、その領域での概念を表す言葉を「特殊概念語」という。例えば、「わび・さび、やり・もらい、みそ汁・煮つけなど」日本人の独自の価値観を表す言葉が、「特殊概念語」といえる。日本語教育の視点から表Ⅳを考えると、教育段階でまず行うことは、「普通概念領域」から始めることが一番教育効果が高いことが分かる。そして、徐々に「特殊概念領域」の言葉や表現方法などを学習して行く事が、外国人教育では最も重要な指導方法だ。

推薦教材

「自学能力を養う」ための有効な教材紹介！！

《 学習者が勉強したくなる！ 楽しく・分かりやすい専門教材 》

【基礎言語能力レベルⅠ】

【教材の特徴】 ① 視覚的に学べる ② 日本語の「規則性と用法」が学べる
③ 漢字も類推して読める ④ ストーリー性があり、体系的に作られている



【テキスト「100万人の日本語 No.1」】

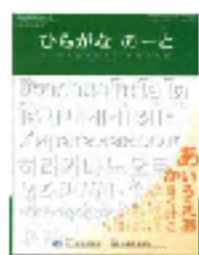
日本語の基礎知識を身近な事例で、分かりやすい文で書かれており、特に「だれが・なにを・どこで・いつ・どうする」を使って、「規則性と用法」が学べ、自在に会話力がつくような内容になっています。

※ 初級漢字数 310字～620字
※ 習得語彙数 520語～1,560語



【漢字のーと1】

「100万人の日本語No.1」に沿った構成となっており、「文型・文の作り方」を習得しながら、効率的に漢字の読み書きが習得できるようにになっています。
※ 漢字圏の学習者が漢字習得をする上で最適です。
また、中国人学習者にも同様です。



【ひらがなのーと】

ひらがな文字の習得に最適な教材です。字型や書き順図だけではなく、日本語の基礎となる「質問と答え」の仕方に絶対必要な会話力が学べます。
身近な事例を使って学習でき、社会生活に必要な語彙も同時に学べる教材です。



【ひらがなのーと】

書きにはひらがな文字が一文字ずつ書かれて、裏面にその文字を使った語のイラストが色彩鮮やかに描かれています。イラスト面には「ひらがな・カタカナ・漢字」の3種類でその言葉が表記されており、学習者が文字を比較しながら、自学できるつくりになっています。
基礎教育の日本語学習に最適な内容になっています。

【基礎言語能力レベルⅡ】



【テキスト「100万人の日本語 No.2」】

会社や学校、家庭内など場面に於ける会話文を中心に構成され、社会生活に必要な語彙を理解しながら、態度や立場による言葉の使い分けが習得できます。
さらに、本テキストを讀みすると、「自分の思いや考え」を表現できる能力が身につくように作られています。各ページで、日本語のあらゆる規則性と用法が習得できます。

※ 初級漢字数 420字～840字
※ 習得語彙数 570語～1,710語



【漢字のーと2】

「100万人の日本語No.2」に沿った内容で、漢字習得と文の作成練習だけでなく、文章に対する読解力も、同時に養えるように作られています。
漢字の「へん・つくり」の材料もあり、「漢字の成り立ち」に対する理解が、できる内容となっています。
※ 漢字圏の学習者が漢字を習得する上で最適です。また、中国人には、日本の漢字を習得させる神薬があります。

【レベルⅠとレベルⅡの違い】
レベルⅠは、日本語を学ぶ上で重要な「規則性と用法」を学習して、【聞く・話す・読む・書く】を基本とし、日本人と同等の力を養うことができる能力を育てます。
レベルⅡは、会話文を中心に「思いや考え」を日本語で表現できる能力を育てます。



【カタカナのーと】

カタカナ語彙を使った場面を表すイラストが各ページに記されています。
このノートは、読解文と会話文が読み取られて記されています。
場面を紹介する文は、外国語の理解と、その会話し場面が分かる、読解問題によって、読解力と文章の応用力を養えるようになっています。

【生活言語能力レベルⅢ】



【テキスト「100万人の日本語 No.3」】

テキストNO1とNO2とは違い、NO3では職場での日本語力が発揮できるように、数人から登場人物の自然な生活と仕事を通して、「日本語の使い方(運用)」力が養えるように作られています。
そして、登場人物を通して、会社での習慣や礼儀作法なども合わせて理解できることが特徴です。

※ 初級漢字数 850字～1,700字
※ 習得語彙数 1,110語～3,330語

【レベルⅡの特徴】

日本特有な表現、特に「語感」を習得し、人間関係を考慮した専門領域での日常会話ができる能力を養い、職場での意思伝達ができるようになります。 語の種類と文の種類を使い分けながら、要約する能力を養うことで、職場での報告書やレポートが書ける能力が身につけられます。
また、日本事情の知識も得られるのが特徴です。

学習段階	教材一覧	価格
レベルⅠ	「ひらがなのーと」	¥1,050
	「100万人の日本語No.1」	¥2,650
	「漢字のーと1」	¥1,360
レベルⅡ	「ひらがなのーと」	¥1,800
	「100万人の日本語No.2」	¥2,650
	「カタカナノート」	¥1,360
レベルⅢ	「漢字のーと2」	¥1,360
	「100万人の日本語No.3」	¥3,000
※ 送料は別途		

※ お問い合わせは弊社まで。 FAX : 03-6677-0632

メール: kotoba_ker@yahoo.co.jp

【国家試験受験能力到達度試験】参加のおすすめ

- 1、受験者には試験結果に基づき、考察票（言語能力到達度）にあわせて学習指導をしますので、担当者が客観的な「考察票評価」に基づいて現状を把握することができます。
さらに、担当者が考察票の指導方法に基づいて具体的な学習指導ができるために、その結果、受験者の言語能力が向上します。
- 2、言語能力の到達度チェックは、2ヶ月単位に到達度数値を見ることが大切です。
常に、受験者の言語能力の変化を定期的に観ることで、国家試験受験能力の向上を促すことができます。今後、受験勉強と同時に、職域での実践力がある人材育成を目指すことが重要です。
そのためにも、【国家試験受験能力到達度試験】を受けることをおすすめします。
- 3、受験対策は、国家試験過去問題だけに偏ることなく、過去問題以上の難易度の高い試験問題に対応できる能力を養うことが、国家試験合格率を高めることとなります。この理由から、本試験のEレベル～国試3レベルまでは、国家試験問題よりも高度な問題作成となっていますので、必然的に合格率の可能性が高まるように作られています。
- 4、最も大切な言語能力は、日本語の基礎言語能力（初回～Dレベル）です。この段階の到達度が目標数値を越えれば、国家試験受験能力はほぼ達成できるように作られています。

【国家試験受験能力到達度】試験と【教材】申し込み書		<送付先：FAX 03-6677-0632>	
施設名/病院名：		ご担当者名：	
所在地：〒			
電話：	FAX：	メールアドレス：	
<受験人数> 名			
<受験者の国籍> インドネシア（ 名） フィリピン（ 名）			
※ 下記の料金は受験者1名あたりの金額です。該当するレベルを○で囲んで下さい。			
<単発受験>			
初回・レベルA・B・C・D・E・F・国試1・2・3 @20,000円 × 名 合計金額 円			
※ 考察のみで、電話やメールでの指導相談は行いません。			
<継続受験>			
初回から全10回（教材費・考察指導料込み） 190,030円 × 名 合計金額 円			
※ 継続受験については、電話やメールでの指導相談を随時、行っています。			

★ 教材のおすすめ 下記の教材は、受験者が自分で日本語の【規則性と用法・運用能力】を養うことができる自学教材です。特に、国家試験問題に対して必要な「読解力」が養えます。

※ ご希望の教材の冊数を（ ）内に必ず、ご記入下さい。

100万人の日本語No.1（ ）冊	ひらがなかーど（ ）冊	漢字のーと1（ ）冊
100万人の日本語No.2（ ）冊	ひらがなのーと（ ）冊	漢字ノート2（ ）冊
100万人の日本語No.3（ ）冊	カタカナノート（ ）冊	

お申込書が届きましたら、一週間以内に教材をお届け致します。教材到着後、三日以内に同封しているお振込み先にお支払い下さい。送料は着払いにさせていただきます。

ことばの研究社 〒164-0002 中野区上高田 3-2-13 石田ビル 303

電話：03-6317-6009 FAX：03-6677-0632 メール：kotoba_ken@yahoo.co.jp